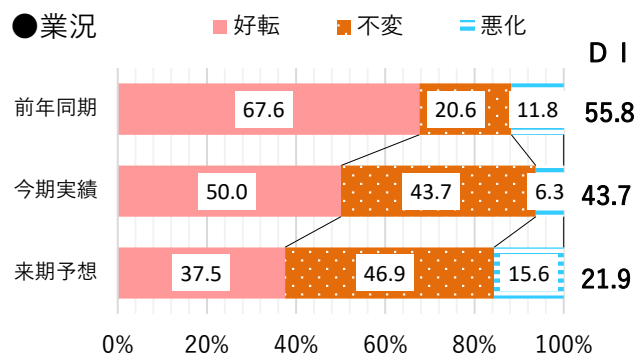


# 観光業

## 業況、売上、採算

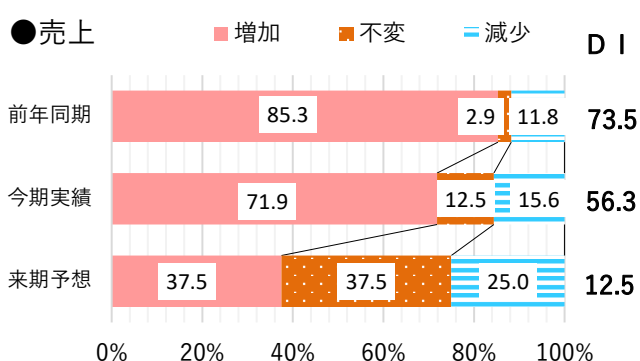
今期（2023.10～12）の業況判断DIは43.7で、前年同期(2022.10～12)と比べ12.1ポイント低下しました。

来期（2024.1～3）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



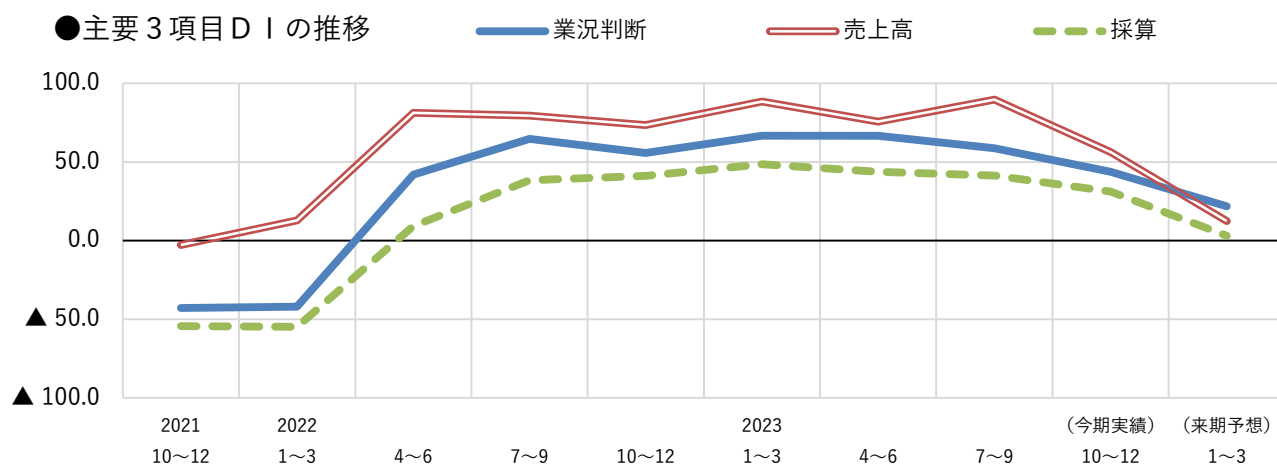
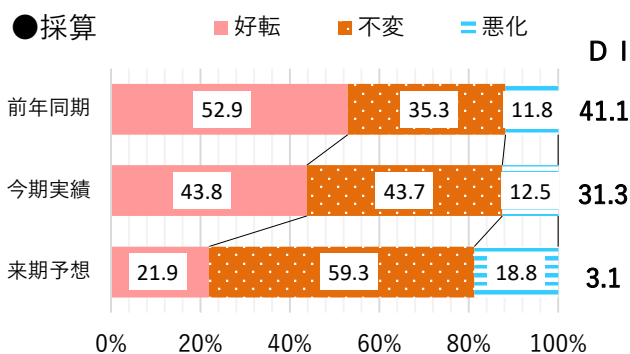
今期の売上DIは56.3で、前年同期と比べ17.2ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の採算DIは31.3で、前年同期と比べ9.8ポイント低下しました。

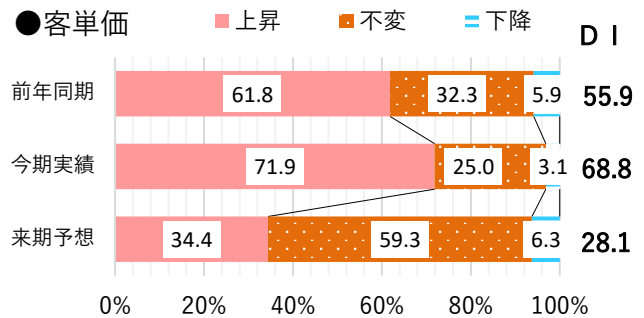
来期は、採算の好転傾向が弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

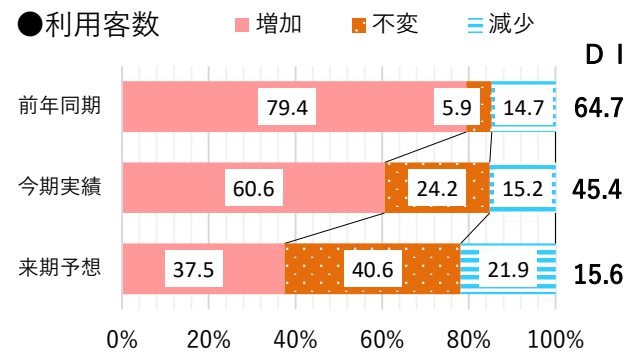
今期の客単価DIは68.8で、前年同期と比べ12.9ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



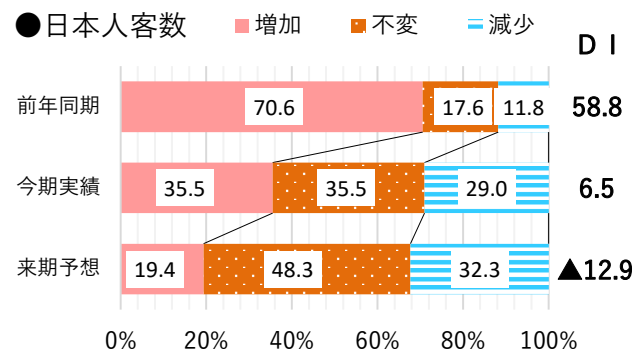
今期の利用客数DIは45.4で、前年同期と比べ19.3ポイント低下しました。

来期は、利用客数の増加傾向が弱まると予想しています。



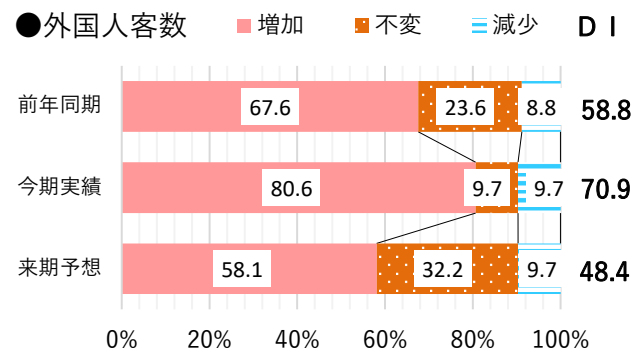
今期の日本人客数DIは6.5で、前年同期と比べ52.3ポイントと大幅に低下しました。

来期は、日本人客数がマイナスに転じると予想しています。



今期の外国人客数DIは70.9で、前年同期と比べ12.1ポイント上昇しました。

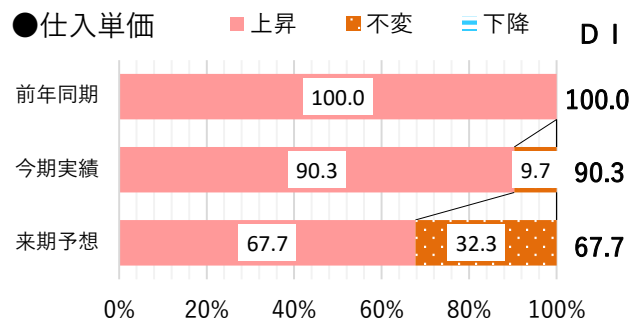
来期は、外国人客数の増加傾向が弱まると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは90.3で、前年同期と比べ9.7ポイント低下しました。

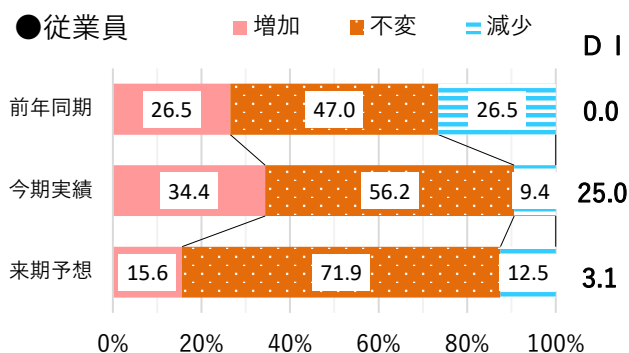
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



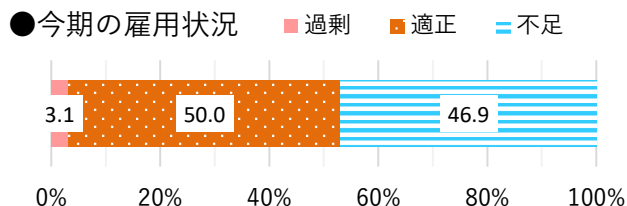
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは25.0で、前年同期と比べ25.0ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.1%、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は46.9%でした。



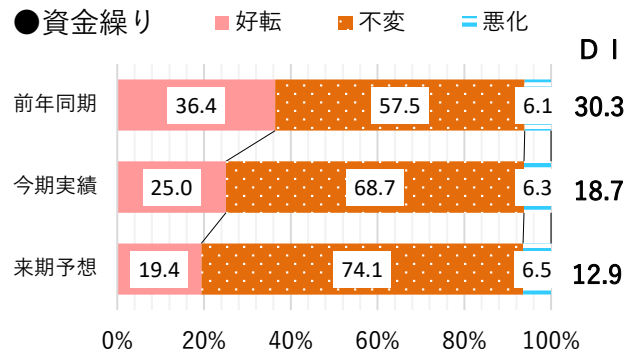
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、28.1%を占めました。回答全体では46.8%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	7
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

## 資金繰り、設備投資

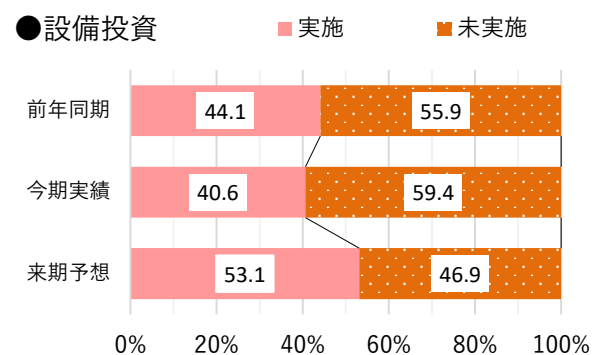
今期の資金繰りDIは18.7で、前年同期と比べ11.6ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は40.6%で、前年同期と比べて3.5%低下しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、1位が「付帯施設」（同位）、2位が「建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は53.1%で、増加を予想しています。

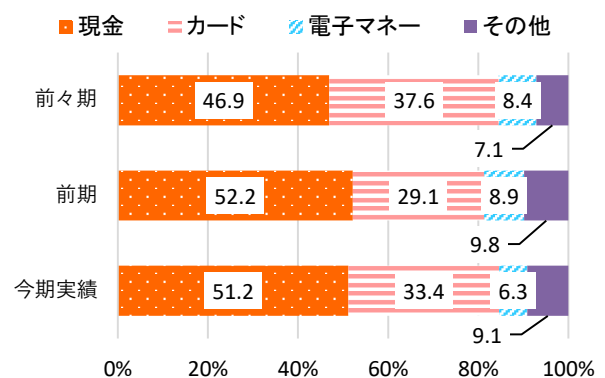


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で51.2%、2位がカードで33.4%、3位がその他で9.1%、4位が電子マネーで6.3%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、掛売り、クーポン券、銀行振込、OTA（Online Travel Agent：インターネット上だけで取引を行う旅行会社）でのカード決済です。

●今期利用客の決済方法(%)

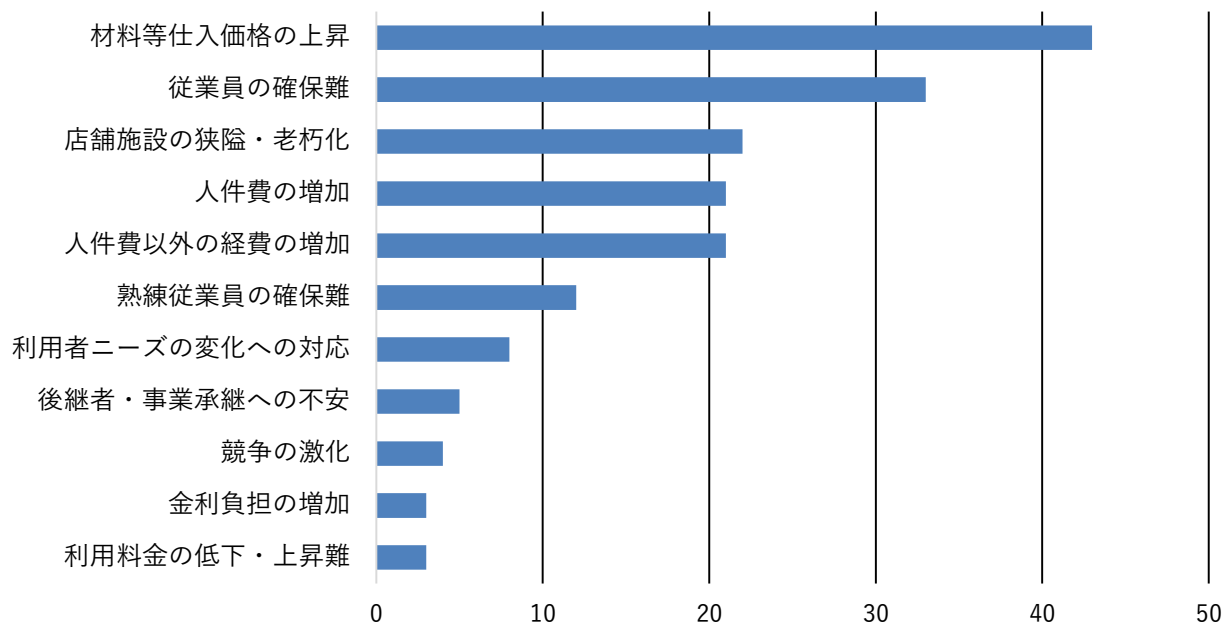


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は64.5%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 2022年10月に新型コロナウイルスの水際対策が緩和されたこと、円安傾向からインバウンドの増加が続いており、売上が増加している。(飲食店)
- 国内ツアーが減少したため、インバウンドに頼っているのが実情だ。(飲食店)
- 外国人客が増加し、売上が伸びている。(飲食店)
- インバウンドが増加している。(飲食店)
- 主な利用者の札幌圏のファミリー層が減少した。インバウンドは回復傾向にある。(社会教育)
- インバウンドの増加により、コロナ禍前の状況に戻りつつある。仕入原価上昇のため、販売価格を引き上げたが、買い控えは起きていない。(土産品)
- 外国人客が非常に増えている。その分お土産を購入する方も多く、売上が増加した。(土産品)
- 観光客は順調に来ている。(土産品)
- 10月までは前年売上より増加した。11~12月は横ばいだった。(土産品)
- 国内客、国外客問わずレジャー需要が好調だ。(レンタカー)
- インバウンドの客数が好転した。(レンタカー)
- 冬シーズンはあまり宿泊が伸びなかったが、夏以降インバウンドやインターハイによる利用があり、売上は増加した。ただし仕入価格等の高騰もあり、売上は想定よりも少ない着地となった。(ホテル)
- インバウンドの利用が増加した。物価高に伴い、仕入額が増加した。毎月求人広告を掲載したことで、人材は増加傾向にある。(ホテル)
- 同業他社と比較し、インバウンドは少ない。中国人客が少ないことが理由だと思われる。(ホテル)
- 売上は増加したが、仕入価格の高騰や賃金、各種手数料の増額により業況は悪化した。(ホテル)
- インバウンドが増加しているが、人手不足のため100%の稼働はできなかった。(ホテル)
- インバウンドは増加したが、仕入価格が上昇しており、厳しい運営状況にある。(ホテル)
- インバウンドが増加した。(ホテル)
- 施設のメンテナンスを実施した。(コテージ・ペンション)

- 前年が極端に落ち込んでいたため、対前年比では改善する見通しだ。（娯楽業）
- 前年同期と比較し、売上、利用客ともに増加している。（水運業）

## [来期の業況について]

- 今年10月の訪日外国人旅行者数が2019年の数値を上回ったことから、さらに多くのインバウンド利用が見込まれる。（飲食店）
- 外国人客による好況がいつまで続くのか分からない。（飲食店）
- インバウンドが一層増加すると思われる。（飲食店）
- 国内団体ツアーの復活に期待する。（飲食店）
- インバウンドの来客が比較的好調のため、利用者の増加に期待する。（社会教育）
- 外国人観光客の増加はしばらく変わらないと思われるので、業況の好転を見込む。（土産品）
- 物価高騰により国内消費の減少が続く。インバウンドの動向は予測できない。（土産品）
- 人員が整い、販売環境が整備されるため、売上の増加が見込まれる。（土産品）
- 冬は観光客の減少を見込む。（土産品）
- 利用料金の引き上げに対する客数の減少が懸念される。（レンタカー）
- 予約は絶え間なく入っており、2023年よりも好調な出足となる見込みだ。仕入価格の高騰も一定の値で落ち着いているので、最大の課題は人材の確保だと思われる。（ホテル）
- 全国旅行支援がなく、海外客が増えるため予想は難しい。今期と同じか売上の減少を見込む。（ホテル）
- 2023年度と同様だと思われるが、利用単価引き上げによる稼働率低下も考えられる。（ホテル）
- 中国人を中心に、今年度以上にインバウンドの増加を見込む。（ホテル）
- 改装工事等があった昨年と比べると改善する予定だ。（ホテル）
- 中国人客の利用増加に期待する。（ホテル）
- インバウンドの増加を見込む。（コテージ・ペンション）
- 決して良くはないが、対前年比で改善する見通しだ。（娯楽業）
- 閑散期になるため、売上、利用客ともに減少が見込まれる。（水運業）